

「冬季オリンピックとまちづくり— 札幌の『これまで』と『これから』をめぐって」

「まちが変わる」と歌にもなった、アジア初の冬季オリンピックを開催してから約半世紀、あの時札幌の街はどう変わったのか、あれから私たちの暮らしはどう変わったのか…

2020年の東京オリンピックが現実味を帯びてきた今、いよいよ札幌市も2026年大会の招致に動き出そうとしています。私たちは、オリンピックが残す「遺産」とどのように向き合い、未来へつなげていくことができるのでしょうか？普段、「する」「みる」のスポーツやオリンピックを、「わたしたちの暮らし」という新たな視点から見直してみませんか？

オリンピックによるまちづくりや開発の「これまで」を紐解き、まちの「これから」を展望する旅に、一緒にでかけましょう！

【講師】



石坂 友司

奈良女子大学 研究院 生活環境科学系 准教授

専門はスポーツ社会学(メガ・スポーツイベント論)。関連業績に、『オリンピックが生み出す愛国心—スポーツ・ナショナリズムへの視点』(2015年、かもがわ出版、共著)、『〈オリンピックの遺産〉の社会学—長野オリンピックとその後の10年』(2013年、青弓社、共編著)、『幻の東京オリンピックとその時代』(2009年、青弓社、共著)など。



高尾 将幸

東京理科大学 理学部第一部教養学科 助教

専門はスポーツ社会学(「健康」論、メガ・スポーツイベント論)。関連業績に、『「健康」と日本社会—リスクと健康のポリティクス』(2015年、新評論、単著)、『〈オリンピックの遺産〉の社会学—長野オリンピックとその後の10年』(2013年、青弓社、共著)、『幻の東京オリンピックとその時代』(2009年、青弓社、共著)など。

【司会】



植田 俊

東海大学 国際文化学部 助教

専門はスポーツ社会学(エスニシティ論、スポーツとまちづくり論)。関連業績に、「スポーツを通じたエスニックネットワークの構築と生活再編」(2015年、東海大学国際文化学部紀要Vol.8)、「ニューカマー外国人との『共生のまち』づくりに向けた社会関係の再編におけるスポーツに関する研究」(2014年、SSFスポーツ政策研究Vol.3(1))、「セーフティネット化する移民のスポーツ空間」(2013年、体育学研究58号2巻)など。

日 時：2016年11月12日(土)
14:00~16:00(13:30開場)
会 場：札幌市資料館2階 研修室
(札幌市中央区大通西13丁目)
定 員：70名(事前申し込みの方を優先)
参 加 費：無料

申 込 先：東海大学札幌校舎 公開講座担当
FAX、メールにて、「代表者名、参加者数、電話番号」をお知らせください。
FAX:(011)571-3629
E - M a i l : sresearch@tsc.u-tokai.ac.jp
問 い 合 わ せ 先：東海大学札幌キャンパス 公開講座担当
TEL:011-571-5111
FAX:011-571-3629

■主催/東海大学札幌キャンパス 社会教育活動委員会 ■後援/札幌市 ■連携/道民カレッジ連携講座